

# 育連だより

第1号

川崎市 川崎区宮本町  
川崎市 青少年育成連盟  
電話 044(200)3309  
編集発行人 増子正宏

## 育連だより発刊に際して



川崎市青少年育成連盟  
理事長 増子正宏

川崎市青少年育成連盟(以下育連と略称)は、去る昭和61年に創立40周年を迎えたが、その後更に4年を加えた。育連はその創立以来、青少年の健全育成、福祉増進という根本目標を追求しながらも、その名称・組織・活動等の面で若干の改変を経て今日に至ったが、最近では川崎市の代表的青少年団体としての存在は名実共に安定したように思われる。

加盟団体は、現在「子ども会」「ボーイスカウト」「ガールスカウト」「海洋少年団」の四系統の総括団体であり、育連の活動の重点は、この四団体の連絡協調と相互の友好・啓蒙の推進に置かれているが、これらの団体がそれぞれ独自の沿革や組織・活動方式の相違にもかかわらず、育連傘下で仲よく協調しあい、共通目標達成に活躍している実情は、他都市にみられない好ましい例として注目されているところである。

青少年団体に關与している者にとって、いま何よりも問題なのは、子供たちを取りまく環境が、自分たちがかつて経験したものとは、いろいろの点で異なり、それが今なお変わらぬままに、この激動の時代に過誤なく対処するのは、おとなだつて容易なことではない。まして子供たち、青少年たちに

私達川崎市子ども会連盟の親ともいふべき川崎市青少年育成連盟もいよいよ半世紀に近い年度をまもなく間近に迎へようとしています。終戦の翌年、戦後の混乱と窮乏の毎日の生活に追われて他人の事など気にしてい

た。以後青少年団体が加盟し昭和四十年に現在の川崎市青少年育成連盟と改組され今日に至っております。私達子ども会連盟も此の育成連盟に助けられながら共に四十年歩いてきたのです。現在は四団体が加盟してお互いに手を携へて二十一世紀に向けて日本を担う青少年の育成に協力しております。此の育成連盟は数少ない青少年育成機関だと私は思っております。市外に出て組織のすばらしさを自慢し、又市外の人達からもうらやましがられている事も事実です。現に育成連盟の今迄の理事さん、評議員さんを経験した方(OB)の方と現役の方と「さくら」会を結成し楽しい会合などを行っておりますのもその表われだと思ひます。

此の時に当り「育連だより」第一号を発行する事は大変有意義な事と思ひます。心から感謝申し上げます。

育連だよりの発刊に際してボーイスカウト川崎地区協議会を代表して心からお祝い申し上げます。川崎市内に、ボーイスカウト運動が開始されてから本年は40年を迎えます。戦後の混乱から復興へ、雑音が聞えるようになり、子ども達の教育、将来のことを

考える人々が現われ、子ども達を集めてゲームや歌を教えているうちに隊がつくられ、団になり、市内に誕生した幾つかの団が地区協議会を結成し、今日に至ります。育連は、昭和21年10月に青少年補導連盟としてスタートを切りまして、数次の改革を経て昭和40年から現在の名称を使うようになりました。官民一体となつて青少年の健全育成運動を展開し、年を追うにつれてその成果も十分上がつてきているものと思ひます。しかし、子ども会、ガールスカウト、海洋少年団、ボーイスカウトに加入している青少年の数は、対象人口からみてもまだまだ少ないように感じられます。私共の運動をこうした機関紙を通じて、更に市民に広く理解され、加入者の増加、組織の拡張がなされるならば、こんな幸せなことはないと思ひます。

## お祝いのことば



ボーイスカウト川崎地区協議会  
会長 児玉一男

これからも、ますます育連加盟4団体がお互いに協力し合い、励まし合いながら更に着実に運動を展開し、これからの日本を支えていく人間を育成していきたいと思ひます。

育連の発展を育連だよりの発刊に心から弥栄を送ります。

これからも、ますます育連加盟4団体がお互いに協力し合い、励まし合いながら更に着実に運動を展開し、これからの日本を支えていく人間を育成していきたいと思ひます。

## お祝いのことば



川崎市子ども会連盟  
連盟長 中島忠三

私達川崎市子ども会連盟の親ともいふべき川崎市青少年育成連盟もいよいよ半世紀に近い年度をまもなく間近に迎へようとしています。終戦の翌年、戦後の混乱と窮乏の毎日の生活に追われて他人の事など気にしてい

た。以後青少年団体が加盟し昭和四十年に現在の川崎市青少年育成連盟と改組され今日に至っております。私達子ども会連盟も此の育成連盟に助けられながら共に四十年歩いてきたのです。現在は四団体が加盟してお互いに手を携へて二十一世紀に向けて日本を担う青少年の育成に協力しております。此の育成連盟は数少ない青少年育成機関だと私は思っております。市外に出て組織のすばらしさを自慢し、又市外の人達からもうらやましがられている事も事実です。現に育成連盟の今迄の理事さん、評議員さんを経験した方(OB)の方と現役の方と「さくら」会を結成し楽しい会合などを行っておりますのもその表われだと思ひます。

此の時に当り「育連だより」第一号を発行する事は大変有意義な事と思ひます。心から感謝申し上げます。

育連は、昭和21年10月に青少年補導連盟としてスタートを切りまして、数次の改革を経て昭和40年から現在の名称を使うようになりました。官民一体となつて青少年の健全育成運動を展開し、年を追うにつれてその成果も十分上がつてきているものと思ひます。しかし、子ども会、ガールスカウト、海洋少年団、ボーイスカウトに加入している青少年の数は、対象人口からみてもまだまだ少ないように感じられます。私共の運動をこうした機関紙を通じて、更に市民に広く理解され、加入者の増加、組織の拡張がなされるならば、こんな幸せなことはないと思ひます。

育連の発展を育連だよりの発刊に心から弥栄を送ります。

これからも、ますます育連加盟4団体がお互いに協力し合い、励まし合いながら更に着実に運動を展開し、これからの日本を支えていく人間を育成していきたいと思ひます。

## 川崎市青少年育成連盟とこのあじふり

川崎市青少年育成連盟とは、少年少女の健全な育成をはかるといふ共通の目標をもっている「子ども会」「ボーイスカウト」「ガールスカウト」「海洋少年団」の四つの組織が一つになり、昭和二十七年に規約の中にはっきりとその目的を「本市内青少年を指導育成しその福祉増進を図る」と明記された。そして、目的達成のための事業をうたうなど設置目的・組織・構成など全く異なる団体が一体となって青少年の健全な育成を目標として活動してい

るものであります。このよくなるものは他都市に例のないことでもあります。現在では川崎市を代表する青少年団体として位置づき社会教育関係団体・文化・体育・スポーツ団体等の中での先駆的な事業をすすめるため「中・高生部会」などの組織化を図りつつ、その育成援助を行い、さらに青少年の国際交流事業の促進を進めています。

昭和二十六年に規約を改

正し、支部の機構を明文化した。指導員を新しく置き、子ども会その他の指導育成にあて、地域における青少年団体の活動の活性化に對処した。

昭和二十一年から青少年補導連盟の名称のもと活動が続けられ、二十七年青少年団体が連盟の中心となり、補導から育成・福祉の面が中心となり名称が実体にそぐわないとの意見により昭和四十年に青少年育成連盟の名称が採用され、名実ともに青少年の育成にあたり

た。以後青少年団体が加盟し昭和四十年に現在の川崎市青少年育成連盟と改組され今日に至っております。私達子ども会連盟も此の育成連盟に助けられながら共に四十年歩いてきたのです。現在は四団体が加盟してお互いに手を携へて二十一世紀に向けて日本を担う青少年の育成に協力しております。此の育成連盟は数少ない青少年育成機関だと私は思っております。市外に出て組織のすばらしさを自慢し、又市外の人達からもうらやましがられている事も事実です。現に育成連盟の今迄の理事さん、評議員さんを経験した方(OB)の方と現役の方と「さくら」会を結成し楽しい会合などを行っておりますのもその表われだと思ひます。

此の時に当り「育連だより」第一号を発行する事は大変有意義な事と思ひます。心から感謝申し上げます。

育連は、昭和21年10月に青少年補導連盟としてスタートを切りまして、数次の改革を経て昭和40年から現在の名称を使うようになりました。官民一体となつて青少年の健全育成運動を展開し、年を追うにつれてその成果も十分上がつてきているものと思ひます。しかし、子ども会、ガールスカウト、海洋少年団、ボーイスカウトに加入している青少年の数は、対象人口からみてもまだまだ少ないように感じられます。私共の運動をこうした機関紙を通じて、更に市民に広く理解され、加入者の増加、組織の拡張がなされるならば、こんな幸せなことはないと思ひます。

育連の発展を育連だよりの発刊に心から弥栄を送ります。

昭和二十一年十月四日、戦後の動乱期の中に青少年の社会生活向上と家庭・学校・職場・社会等の連繫協力をかかげて発足した。昭和二十二年には各地域に児童愛護班が発生、ボランティアリーダーによる子ども会活動が生まれた。

昭和二十五年各地のボランティア子ども会や児童愛護班を入れて名称を川崎市青少年補導連盟とし、すっかりした機構になった。

第二次改革  
昭和二十六年に規約を改

正し、支部の機構を明文化した。指導員を新しく置き、子ども会その他の指導育成にあて、地域における青少年団体の活動の活性化に對処した。

昭和二十一年から青少年補導連盟の名称のもと活動が続けられ、二十七年青少年団体が連盟の中心となり、補導から育成・福祉の面が中心となり名称が実体にそぐわないとの意見により昭和四十年に青少年育成連盟の名称が採用され、名実ともに青少年の育成にあたり

た。以後青少年団体が加盟し昭和四十年に現在の川崎市青少年育成連盟と改組され今日に至っております。私達子ども会連盟も此の育成連盟に助けられながら共に四十年歩いてきたのです。現在は四団体が加盟してお互いに手を携へて二十一世紀に向けて日本を担う青少年の育成に協力しております。此の育成連盟は数少ない青少年育成機関だと私は思っております。市外に出て組織のすばらしさを自慢し、又市外の人達からもうらやましがられている事も事実です。現に育成連盟の今迄の理事さん、評議員さんを経験した方(OB)の方と現役の方と「さくら」会を結成し楽しい会合などを行っておりますのもその表われだと思ひます。

此の時に当り「育連だより」第一号を発行する事は大変有意義な事と思ひます。心から感謝申し上げます。

育連は、昭和21年10月に青少年補導連盟としてスタートを切りまして、数次の改革を経て昭和40年から現在の名称を使うようになりました。官民一体となつて青少年の健全育成運動を展開し、年を追うにつれてその成果も十分上がつてきているものと思ひます。しかし、子ども会、ガールスカウト、海洋少年団、ボーイスカウトに加入している青少年の数は、対象人口からみてもまだまだ少ないように感じられます。私共の運動をこうした機関紙を通じて、更に市民に広く理解され、加入者の増加、組織の拡張がなされるならば、こんな幸せなことはないと思ひます。

育連の発展を育連だよりの発刊に心から弥栄を送ります。

昭和二十一年十月四日、戦後の動乱期の中に青少年の社会生活向上と家庭・学校・職場・社会等の連繫協力をかかげて発足した。昭和二十二年には各地域に児童愛護班が発生、ボランティアリーダーによる子ども会活動が生まれた。

昭和二十五年各地のボランティア子ども会や児童愛護班を入れて名称を川崎市青少年補導連盟とし、すっかりした機構になった。

第二次改革  
昭和二十六年に規約を改

正し、支部の機構を明文化した。指導員を新しく置き、子ども会その他の指導育成にあて、地域における青少年団体の活動の活性化に對処した。

昭和二十一年から青少年補導連盟の名称のもと活動が続けられ、二十七年青少年団体が連盟の中心となり、補導から育成・福祉の面が中心となり名称が実体にそぐわないとの意見により昭和四十年に青少年育成連盟の名称が採用され、名実ともに青少年の育成にあたり

た。以後青少年団体が加盟し昭和四十年に現在の川崎市青少年育成連盟と改組され今日に至っております。私達子ども会連盟も此の育成連盟に助けられながら共に四十年歩いてきたのです。現在は四団体が加盟してお互いに手を携へて二十一世紀に向けて日本を担う青少年の育成に協力しております。此の育成連盟は数少ない青少年育成機関だと私は思っております。市外に出て組織のすばらしさを自慢し、又市外の人達からもうらやましがられている事も事実です。現に育成連盟の今迄の理事さん、評議員さんを経験した方(OB)の方と現役の方と「さくら」会を結成し楽しい会合などを行っておりますのもその表われだと思ひます。

此の時に当り「育連だより」第一号を発行する事は大変有意義な事と思ひます。心から感謝申し上げます。

育連は、昭和21年10月に青少年補導連盟としてスタートを切りまして、数次の改革を経て昭和40年から現在の名称を使うようになりました。官民一体となつて青少年の健全育成運動を展開し、年を追うにつれてその成果も十分上がつてきているものと思ひます。しかし、子ども会、ガールスカウト、海洋少年団、ボーイスカウトに加入している青少年の数は、対象人口からみてもまだまだ少ないように感じられます。私共の運動をこうした機関紙を通じて、更に市民に広く理解され、加入者の増加、組織の拡張がなされるならば、こんな幸せなことはないと思ひます。

育連の発展を育連だよりの発刊に心から弥栄を送ります。

## 21世紀を担う子らのために



ガールスカウト川崎連絡会  
会長 荒垣秀代

桜ほころぶ春、「育連だより」が創刊される事に大きな期待をもちました。

なせならば、子ども会、ボーイスカウト、海洋少年団、ガールスカウトで構成する育成連盟は、相互の連絡、協調により発展してま

育連は、昭和21年10月に青少年補導連盟としてスタートを切りまして、数次の改革を経て昭和40年から現在の名称を使うようになりました。官民一体となつて青少年の健全育成運動を展開し、年を追うにつれてその成果も十分上がつてきているものと思ひます。しかし、子ども会、ガールスカウト、海洋少年団、ボーイスカウトに加入している青少年の数は、対象人口からみてもまだまだ少ないように感じられます。私共の運動をこうした機関紙を通じて、更に市民に広く理解され、加入者の増加、組織の拡張がなされるならば、こんな幸せなことはないと思ひます。

育連の発展を育連だよりの発刊に心から弥栄を送ります。

## 発刊によせて



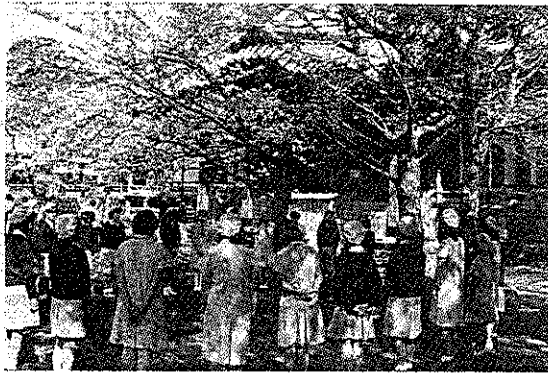
川崎海洋少年団  
団長 福田武雄

「育連だより」発刊おめでとございます。

育連としての歴史は古く、昭和二十一年に青少年補導連盟として発足し、昭和四十年に現在の青少年育成連盟に改称され、発足後四十四年が経過しているが、行政と一体となつて連絡しながら運営されているのは、全国的にも例がなく、川崎市の青少年行政に対する理解が一番確立されているのではないかと思ひます。

育連の発展を育連だよりの発刊に心から弥栄を送ります。

# 加盟団体の紹介



**カールスカウト川崎連絡会**

川崎市にカールスカウト運動が始まって、今年で三〇周年を迎えようとしております。

現在市内に八ヶ団約五百五十名の会員数で活動をしておりカールスカウトの基本理念に基づいたプログラムを展開しております。

カールスカウト運動の目的は、少女たちを健康で人に役立つことを幸福と感じる市民に育てることにあります。そのたと

呼びその年令に適した活動を行います。

活動のポイントは「よくそく」と「おき」の実践を心がけ活動を通して、健やかな心身を育て、二、実社会に役立つ技術を身につけ、三、豊かな創造性を養い、四、すすんで人の役に立つこととする気持を育てることです。

少女会員は四段階に分れており、

- 小学校一年生～三年生をブラウニー
- 四年生～六年生をジュニア
- 中学生はシニア
- 高校生をレンジャー

## 川崎市子ども会連盟

川崎市子ども会連盟に登録されている子ども会数は四二六団体あります。その子ども会七つの「区連合子ども会」の中で、それぞれの地域で活動しています。単位子ども会、町会が地域か学区区内で組織され地域性を生かして子ども会を行っています。

川崎は、北部の農村地区から新興住宅地、南部は工業都市地区であり、それぞれの区連合が軸となってスポーツに創作活動に地域の伝承文化の継承にと活動し頑張っています。

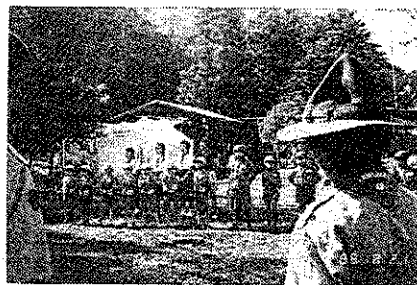
文化面では、各区子連で「少年少女の集い」が秋から初冬にかけて単会のクラブ活動の発表の場を兼ね合唱、踊り、器楽演奏に劇と多様な出演に市民館ホールは会員をはじめ父母の皆さんで溢れるばかりの盛況です。創作活動では「かかし」作り、はり絵作りをはじめ御興作りと子ども達の創造性豊かなところを見せられます。スポーツ面では、夏季に小中学生の野球大会を行っています。決勝戦は川崎球場で行い年々参加チームが増えて七〇〇チームの参加を数えています。小学生野球は各区子連でも春秋の大会を行い子ども会の要望に応えています。

この他、ドッチボール、バレーボールに相撲等が行われます。女子のはねつき大会は今年で三八回目を迎え、伝統のはねつきをお母さん



も一緒に頑張って競技をし、年々盛会になっていきます。子ども会連盟では、単会の子ども会振興充実のため会長班長研修会、育成指導者研修会を全区子連で行っています。やがて「子どもの手」による子ども「子ども会」を相言葉に、各区子連も、単会も地域に生きた地道な活動が子ども達中心に行なわれていることをお知らせいたします。

## 日本ボーイスカウト川崎地区協議会



ボーイスカウト運動は、一九〇七年、イギリスのベイン・パウエル卿が自らの実践により提唱された青少年育成の社会教育運動で現在世界の一二〇ヶ国一、六〇〇万人の人々が運動を展開しています。

日本連盟には、約三十万人のスカウト、リーダー、団委員が登録されています。神奈川県には、約二十万人が、川崎地区には二十七ヶ団、約一、八〇〇人の人達が所属し、活動しています。

ボーイスカウトに入団できるのは小学校就学前の九月からです。まず、仮入隊し、二、三ヶ月見習いスカウト、その後「よくそく」または「ちかい」をたてて正式隊員になります。

小学一年生～二年生をビバーンスカウト、小学三年生～五年生をカブスカウト、小学六年生～中学三年生をボーイスカウト、高校生をシニアスカウト、大学一年生～二十四才までをローパスカウトと五つの段階があり、それぞれ二十一才以上の有資格者のリーダー

## 川崎海洋少年団

活動：一月、二、三回、日曜日。

○大師橋のふもとに、カッター(六人漕ぎの大型ボート)、ヨット、カヌーを係留し、海上訓練。

○情操教育として、市民祭、子供遊園会において、発表するバンド音楽隊練習。

○ハイキング、又、八丈島、奥多摩等にて、キャンプ、自炊野外活動

○神奈川県、関東、全国大会参加

○カッター、水泳、手旗競技に参加し、他団々員と

が所属し、活動しています。ボーイスカウトに入団できるのは小学校就学前の九月からです。まず、仮入隊し、二、三ヶ月見習いスカウト、その後「よくそく」または「ちかい」をたてて正式隊員になります。

小学一年生～二年生をビバーンスカウト、小学三年生～五年生をカブスカウト、小学六年生～中学三年生をボーイスカウト、高校生をシニアスカウト、大学一年生～二十四才までをローパスカウトと五つの段階があり、それぞれ二十一才以上の有資格者のリーダー

海上保安庁の巡視船に、乗せてもらい、船の操縦、航海計器等の取扱いを学ぶ。

○川崎市行事参加

区フェスティバル、美化運動、川崎市民祭等。

○国際交流活動

姉妹都市、オーストラリア・ウイロンゴ市訪問にて、現地青年団体と、マリンスポーツ等を通して、国際親善。

団員資格：小学一年以上の男女。

協調性があり、活動に意欲的、合宿中など、一人で身の回りができるものは誰れでも可能です。

海上訓練が多い為、規律正しい集団生活に順応できる敏速で、健康な体を作る事を目的としています。

当団は、昭和四十年に発団し、二五周年がたちました。今後とも、若い指導者の活躍な活動を行なって行きたいと思っております。



のもで、月に三、四回の集会、野外活動・奉仕活動などを通して社会に役立つ知力・体力・技能・精神を養い、ルールの大切さを学び、人の役に立つことを進んで行うことの大切さを学ばせ、身についていく素晴らしい社会教育運動です。また、

近年は国際交流も盛んで特に川崎市と姉妹都市関係にあるアメリカのボルチモア市のスカウトとの相互交流を実施しています。国際感を身につけた青少年が大きく成長してほしいと願っています。

本年度は部会員三名、参与二名で構成、次のような日程、内容で開催され大きな成果をおさめた。

9月8日(金) テーマ及び班別担当プログラムについて

9月29日(金) 年間プロ決定

10月11日(水) レク・ゲーム研修

11月25日(土) 野外炊事、果物づくり、ファイヤー

12月16日(土) 集い(クリスマスマス会)の研修

1月7日(日) ボーリング教室

2月3日(土) レク・ゲーム 一泊研修

3月4日(日) レク・ゲーム 一泊研修

3月25日(日) 野外ゲーム(登山)二泊研修

3月27日(火) 野外ゲーム(登山)二泊研修

1. 中・高生年令の青少年の社会参加がさげばれ久しく、育成連盟加盟各団体に於いても、その為の諸施策、諸事業が展開されている。

育成連盟においても、昭和六十年度より中高生部会を設立、取組んできたが、平成元年度は、もう一度本事業を見直してみようべく中高生対象受託事業企画、実行委員会を設置し、研究検討してまいりました。

中高生自身の社会参加への意識(要望・期待等)含め生活環境(余裕時間配分その他)活動環境(受入先、活動場面等)等々多くの検討課題をひとつひとつ解決すべく努力中です。より多くの方々の指導、ご協力の今日この頃。

## 事務局だより

1. 中・高生年令の青少年の社会参加がさげばれ久しく、育成連盟加盟各団体に於いても、その為の諸施策、諸事業が展開されている。

育成連盟においても、昭和六十年度より中高生部会を設立、取組んできたが、平成元年度は、もう一度本事業を見直してみようべく中高生対象受託事業企画、実行委員会を設置し、研究検討してまいりました。

中高生自身の社会参加への意識(要望・期待等)含め生活環境(余裕時間配分その他)活動環境(受入先、活動場面等)等々多くの検討課題をひとつひとつ解決すべく努力中です。より多くの方々の指導、ご協力の今日この頃。